

# 商工会議所LOBO（早期景気観測）

-2016年2月調査結果-

## 調査要領

- 調査期間 2016年2月18日～24日
- 調査対象 200社
- 回答企業 106社
- 回収率 53.0%

### ※DI値（景気判断指数）について

DI値は、売上・採算・業況などの各項目についての判断の状況を表す。

ゼロを基準として、プラスの値で景気の上向き傾向を表す回答の割合が多いことを示し、マイナスの値で景気の下向き傾向を表す回答の割合が多いことを示す。

従って、売上高などの実数値の上昇率を示すものではなく、強気・弱気などの景気感の相対的な広がりの意味する。

なお、従業員の項目については、DI値ゼロを基準として、プラス値は人員不足感を表し、マイナス値は人員過剰感を表している。

DI値 = (増加・好転などの企業割合) - (減少・悪化などの企業割合)

業況・採算：(好転) - (悪化) / 売上：(増加) - (減少) / 従業員：(不足) - (過剰)

## 旭川市概況

※全産業の2月の状況を見ると業況DIは、前月より7.2ポイント回復の▲26.4。

2014年4月以来23ヶ月連続マイナス水準で推移している。

業種別では、建設業、製造業、サービス業の3業種において回復した。

※向こう3か月の先行き見通し業況DIは▲17.9と当月に比べ8.5ポイント回復を見込んでいる。

業種別でみると、建設業、卸売業、小売業の3業種において回復が見込まれている。

## 旭川市全産業 DI 値（前年同月比）の推移

|      | 9月    | 10月   | 11月   | 12月   | 1月    | 2月    | 先行き見通し<br>3～5月 |
|------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|----------------|
| 業況   | ▲24.1 | ▲27.9 | ▲37.1 | ▲30.0 | ▲33.6 | ▲26.4 | ▲17.9          |
| 売上   | ▲13.4 | ▲18.1 | ▲42.9 | ▲20.0 | ▲28.4 | ▲22.7 | ▲11.3          |
| 採算   | ▲16.0 | ▲23.8 | ▲37.1 | ▲30.0 | ▲29.2 | ▲22.6 | ▲13.2          |
| 仕入単価 | ▲33.9 | ▲32.7 | ▲33.3 | ▲26.0 | ▲20.6 | ▲22.6 | ▲17.0          |
| 従業員  | 25.9  | 25.7  | 18.1  | 21.0  | 15.9  | 16.1  | 21.7           |
| 資金繰り | ▲6.3  | ▲9.5  | ▲17.1 | ▲14.0 | ▲12.4 | ▲11.3 | ▲14.1          |

## 旭川市産業別業況DI値（前年同月比）の推移

|      | 9月    | 10月   | 11月   | 12月   | 1月    | 2月    | 先行き見通し<br>3～5月 |
|------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|----------------|
| 建設   | ▲35.0 | ▲40.9 | ▲21.7 | ▲30.5 | ▲54.6 | ▲27.3 | ▲4.6           |
| 製造   | ▲20.7 | ▲14.8 | ▲27.6 | ▲23.1 | ▲14.3 | ▲14.2 | ▲17.9          |
| 卸売   | ▲26.1 | ▲30.4 | ▲42.9 | ▲30.0 | ▲33.3 | ▲40.0 | ▲30.0          |
| 小売   | ▲42.1 | ▲55.6 | ▲70.6 | ▲52.6 | ▲47.6 | ▲55.6 | ▲38.8          |
| サービス | 0.0   | 7.1   | ▲33.3 | ▲8.3  | ▲22.2 | 0.0   | 0.0            |

## 今月のトピックス（業界の声）

|       |  |
|-------|--|
| 建設業   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・（下請けの多い専門業種なので、）公共事業減少から競争が激しいことに加え、先行き見通しが立たない状況である。卸分野進出事業は、悩みながらも概ね順調に推移。</li> <li>・工事全体量（数）が減少傾向にあると思われる。</li> </ul>   |
| 製造業   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・仕事が薄く、販売価格の下げ圧力が強い。</li> <li>・インターネットの普及等により、印刷業界のマーケットは縮小傾向にある。同業者及び関連業者を含めて、競争は激化している。例年、1・2月は低調な時期であるが、3月以降の消費の伸びに期待したい。</li> <li>・需要期へ向けての駆け込み受注は収まった感があるが、依然受注残が多く、今後の生産増強が課題となる。東アジアからの受注が旺盛。</li> <li>・新規顧客が増加するも、12月以降見積件数がやや減少・市場が少し上向きになってきているような気がする。ただ来年消費税が上がるようなので前回のようなことは無いと思うがやや不安が残る。</li> <li>・売り上げ低位安定、原価上昇、先行き不安。</li> </ul>  |
| 卸売業   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・昨年10月から売上が悪化し、この傾向は続きそう。今期の決算（6月）は年度末の動向次第で大きく変動しそう。</li> <li>・原油市場は依然として大きな動きがなく、石油製品の価格は小幅な動きで推移するものと思われる。</li> <li>・観光産業の回復が大きく影響する。北海道新幹線開業3月26日で道南の観光地が積極的にPR推進されよい影響となりより良い成果となることを期待している。</li> <li>・生産量とそれを補う輸入量とともに減少する中で、供給過剰の月が半年ほど続いている。産業としての位置づけ、立場（立位置）をもう一度見直さなければならない。需給のバランスが上代に転嫁しない。川上から川下までがどう生活者のお役に立てばよいのか考えていきたい。</li> </ul>  |
| 小売業   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・前年に比べ想定以上にバレンタインギフト需要の減少が顕著に出ており、その部分のマイナスで苦戦しているところが多かった印象である。気候も安定しない日が多く、春物新作の先物買いのお客様が少ないのもマイナス要因。</li> <li>・前年は競合店の新規開店、改装と前々年の増税前の実績を追うべく無理をしていたため、当月は相当厳しい月度と位置づけしている。</li> </ul>   |
| サービス業 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・旭川市内は売上減少、富良野地区、札幌方面は売り上げ増。全体的に売り上げ増により残業が多い。（人件費の高騰にて）。又、人手不足により会社は大変であるが仕事が増加し、少々利益が上がっている。</li> <li>・前年より1日多い分少しは好調</li> <li>・2月に関しても旭川冬まつりとインバウンドの春節と重なり冬まつり期間中は満室状況が続きましたが、今月下旬より3月（ルートイングランデ旭川）のオープン等で苦戦が続きそう。但し、昨年までは少なかったスキー、スノーボードの客はかなり伸びている。プロとしてのホテルマンの減少・不足に頭が痛い。</li> <li>・アジア系外国人のお客様が多く料金支払いに時間がかかっている。対処方法も考えていかねば。</li> <li>・春節と冬まつりが重なり、中国人観光客が増えると予想されていたが、昨年よりは多かったと思われるが期待していたほどではなかった。</li> <li>・年度末工期に向けて大詰め状況である。</li> <li>・宿泊人数減も単価アップ、宿泊収入前年並。宴会等増収により、総収入102.3%増見込み。</li> <li>・在庫台数減少した：板金塗装減少。車を手放す人が多くなったのが原因と思う。</li> </ul> |

## 旭川市の産業別概況

| 産業    | 概況   |
|-------|--|
| 建設業   | 売上 DI13.6 ポイント回復、採算 DI9.1 ポイント回復、仕入単価 DI13.7 ポイント回復、資金 DI9.1 ポイント回復、従業員 DI は 9.1 ポイント減少し不足感が弱まった。総じて業況 DI は 27.3 ポイント回復となった。業種別では、建築 10 ポイント悪化。総合工事 27 ポイント、設備その他 50 ポイント回復となった。公共事業の減少から競争が激しいことに加え、先行き見通しが立たない状況であるとの声も寄せられている。                  |
| 製造業   | 売上 DI14.2 ポイント回復、採算 DI7.1 ポイント回復、仕入単価 DI17.3 ポイント悪化、資金 DI7.2 ポイント悪化、従業員 DI7.2 ポイント増加し不足感が高まった。総じて業況 DI は 0.1 ポイント回復となった。業種別では、食料品 33 ポイント、家具木材 17 ポイント悪化。印刷出版 20 ポイント、金属窯業他 12 ポイント回復となった。売り上げ低位安定、原価上昇、先行き不安との声も寄せられている。                          |
| 卸売業   | 売上 DI4.2 ポイント回復、採算 DI18.3 ポイント回復、仕入単価 DI3.3 ポイント悪化、資金 DI6.7 ポイント悪化、従業員 DI2.5 ポイント減少し不足感が弱まった。総じて業況 DI は 6.7 ポイント悪化となった。業種別では、食料品 4 ポイント、機械鋼材 5 ポイント回復、繊維横ばい、その他 22 ポイント悪化となった。昨年 10 月から売上が悪化し、この傾向は続きそう。今期の決算（6 月）は年度末の動向次第で大きく変動しそうとの声も寄せられている。   |
| 小売業   | 売上 DI15.1 ポイント悪化、採算 DI7.2 ポイント悪化、仕入単価 DI5.6 ポイント悪化、資金 DI15.9 ポイント回復、従業員 DI は 3.2 ポイント増加し不足感が高まった。総じて業況 DI は 8.0 ポイント悪化となった。業種別では、その他 3 ポイント回復、衣料品 33 ポイント、食料品 7 ポイント、自動車 3 ポイント悪化となった。前年に比べ想定以上にバレンタインギフト需要の減少が顕著で、そのマイナス要因で苦戦している所が多いとの声も寄せられている。 |
| サービス業 | 売上 DI 横ばい、採算 DI 横ばい、仕入単価 DI11.1 ポイント回復、資金 DI5.6 ポイント悪化、従業員 DI 横ばい。総じて業況 DI は 22.2 ポイント回復となった。業種別ではクリーニング 100 ポイント、その他 25 ポイント悪化。飲食横ばい。ホテル 50 ポイント、整備業 50 ポイント、運送 50 ポイント回復となった。宿泊人数減も単価アップ、宿泊収入前年並。宴会等増収により、総収入 102.3%増見込みとの声も寄せられている。             |